

シンガポールで求められる教育旅行

シンガポール事務所

7月27日（月）にシンガポールで開催された JNTO 主催の教育旅行セミナー・商談会に参加しました。

3回目となる今回は、セラーとして茨城県、長崎市、関西地域振興財団、愛知県観光協会など 15 団体がブースを設け、バイヤーとしてシンガポールの旅行会社、専門学校などの団体が参加しました。静岡県東南アジア駐在員事務所、松本観光コンベンション協会などによるプレゼンテーションの後、商談会、抽選会という日程で行われました。商談会では、バイヤーがスタンプラリーの用紙を持ってセラーのブースで 10 分程度の商談を行い、商談終了後にもらえるシールが 6 つ集まればセラーが景品を用意した抽選会に参加できるというものでした。長崎市は、日本の修学旅行でよく利用される平和学習コース、長崎の歴史体験コースや、長崎の伝統芸能の龍踊、ちゃんぽんやカステラづくり体験なども PR しました。

バイヤーからは、「金融機関、製造業などで日本企業のスキルを学べる旅行ができるか」、「インターンシップができる旅行はあるか」、「機械、電子、建築などの専門学校と交流し専門知識を学べる旅行ができるか」、「日本の旅行会社のエージェントを紹介できるか」、「バッジやボールペンなど小物の記念品の配布特典はあるか」などの問い合わせがありました。

バイヤーが求める旅行者の対象年齢としては、主に 13 歳から 19 歳まででしたが、中には社会人を対象とした教育旅行の問い合わせもありました。

シンガポールでは、教育旅行にスキルアップの要素を求める傾向があるため、地域の企業や学校とタイアップした旅行を提案することが、シンガポールからの教育旅行を誘致する上で必要と考えられます。



商談会の様子

（梅澤所長補佐 長崎県長崎市派遣）